

B-10

出展団体名	山口大学	
発表者所属	農学部	
発表者氏名	古賀大三	
発表タイトル	キチナーゼを利用した新規バイオ農薬（酵素農薬）の開発	
ねらい	<input type="checkbox"/> ビジネスパートナー探し	
	<input type="checkbox"/> 共同研究パートナー探し	
	<input type="checkbox"/> 共同製品開発のパートナー探し	
	<input type="checkbox"/> 所有技術シーズの顧客（ライセンス）探し	
	<input type="checkbox"/> その他（ ）具体的に	
キーワード	①バイオ農薬	②キチナーゼ
	③酵素	④環境
要 旨（アピールポイント）		
<p>従来の農薬は化学農薬が主体であり、その化学農薬はヒトの健康や生態系を含む自然環境へ悪影響を及ぼし、深刻な公害問題となっている。しかし、本バイオ農薬は、植物が自然に、長年にわたり、開発してきた生体防御機構を模倣したもので、植物の生体防御酵素の、溶菌・殺虫酵素であるキチナーゼ等を使用したものである。そのため、ヒトや環境に優しい、未来の農薬である。また、安全性についても、従来の化学農薬は残留毒性が問題になるが、酵素（タンパク質）であるため、生分解性があり、安全・安心である。</p> <p>本バイオ農薬は、農薬替わりのみでなく、以下のような応用・利用が考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) うどんこ病などの植物病原菌の駆除 (2) 松くい虫、青虫などの害虫の駆除 (3) 食品・医薬等関係の建物内でのカビの駆除 (4) レンズカビの除去 (5) 家庭内のゴキブリ・シロアリの駆除 (6) 文化遺産の保全（古墳内のカビ対策） 		